

# なぜ、社会的孤立 は問題なのか？

2024年3月9日13:00-16:30

於 Zoom

社会学系コンソーシアム第16回シンポジウム

主催：社会学系コンソーシアム、日本学術会議  
社会学委員会

共催：科学技術振興機構 / 社会技術研究開発セン  
ター（JST/RISTEX）

討論者

稲葉陽二（日本社会関係学会）



# 自己紹介

1949年東京生まれ 京大経済学部卒、スタンフォード大学ビジネススクール公企業経営コース修了（MBA）、筑波大学で政治学の辻中豊先生の指導で博士（学術）。5年毎に廃止論がでる政府系金融機関に30年間勤務。サンフランシスコ、パリ、ワシントンD.C.と世界3大観光地に8年間在住したが、最も印象に残ったのは開発コンサルとして活動した冬のモンゴル、内戦中のスリランカ、平均年齢が38歳まで低下したザンビア。

53歳で退職後、日本大学法学部政治経済学科教授（日本経済論・経済学原論・ソーシャル・キャピタル論）、17年間勤務し2020年コロナ禍のなかで退職。

現在日大大学院法学研究科非常勤講師のほか金融機関勤務時代から始めた社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）研究の知識を生かして、この研究領域の「地域猫」的扱いでボランティア活動。

近著に佐藤嘉倫・稲葉陽二・藤原佳典（編著）（2022年）『AIはどのように社会を変えるのか ソーシャル・キャピタルと格差の視点から』東京大学出版会.社会的孤立については稲葉陽二・藤原佳典（編著）（2013年）『ソーシャル・キャピタルで解く社会的孤立 重層的予防策とソーシャルビジネスへの展望』ミネルヴァ書房。

# • 討論者という「気楽な」立場からの 視点の提起

1. なぜ問題なのか
  1. 社会関係資本論からの視点
  2. 人間のあるべき姿（なぜ政府があるのか）からの視点
2. 孤立の若年化と「ひきこもり」について
3. 因果関係に関する理論的枠組み
4. 孤立の緩和手段としてのICT・SNS・AIの活用
5. 私の意見 社会的孤立を社会経済的問題として捉えるのなら幼少期・青少年期での対応が最優先課題

# そもそも、なぜ、孤立が問題かを考えなければならぬのか

石田先生の指摘は現在の状態が自己責任に帰すべき部分の多い中高年層については正しい。また、斉藤先生の高齢者に関する実証研究の成果も重要。しかし、現状が「親ガチャ」など本人の責任ではない部分が大半である乳幼児、若年層、青少年層には当てはまらないのではないのか。



本書の原題は「OUR KIDS」であるが、パットナムは最後のページでその真意を解き明かす。パットナムは個人主義者のラルフ・ウォルド・エマーソンの利己的な主張「全ての貧者をよい境遇に置くのは私の義務だなどと述べるのは止めてほしい」(ibid., p.291)を紹介したあと、コミュニタリアンのジェイ・アッシュの「もしわれらの子どもが困っているのなら——自分の子ども、われわれの子ども、誰の子どもであっても——、その面倒を見る責任はわれら全てが負っている」(p.291)を引用し、次のように述べている。

「今日のアメリカでは、アッシュが正しかったというだけでなく、われわれのうちエマーソンのように考える者であってさえも、こういった子どもに対する自身の責任を認めなければならない。アメリカの貧しい子どもも、確かにわれわれに属しているのであり、われわれも間違いなく彼らに属しているのだから。彼らは、われらの子どもなのだ。」(ibid.)

本書の邦題は「われらの子ども」だが、その真意は「みんなの子ども」なのだ。

稲葉陽二 (2017) 書評 ロバート・パットナム著／柴内康文訳  
『われらの子ども 米国における機会格差の拡大』

OUR KIDS *The American Dream in Crisis*

# われらの子ども

米国における機会格差の拡大

ロバート・D・パットナム [著]  
柴内康文 [訳]



〈夢なき社会〉を生んだ米国の貧困を、  
子どもの物語と社会調査で活写した、  
全米ベストセラー!!

推薦  
します!  
(敬称略)

湯浅誠

トランプ現象をもたらした  
アメリカの亀裂(機会格差)を真に解明する名著。

ブレイディみかこ

分断社会は子どもの貧困から始まる。

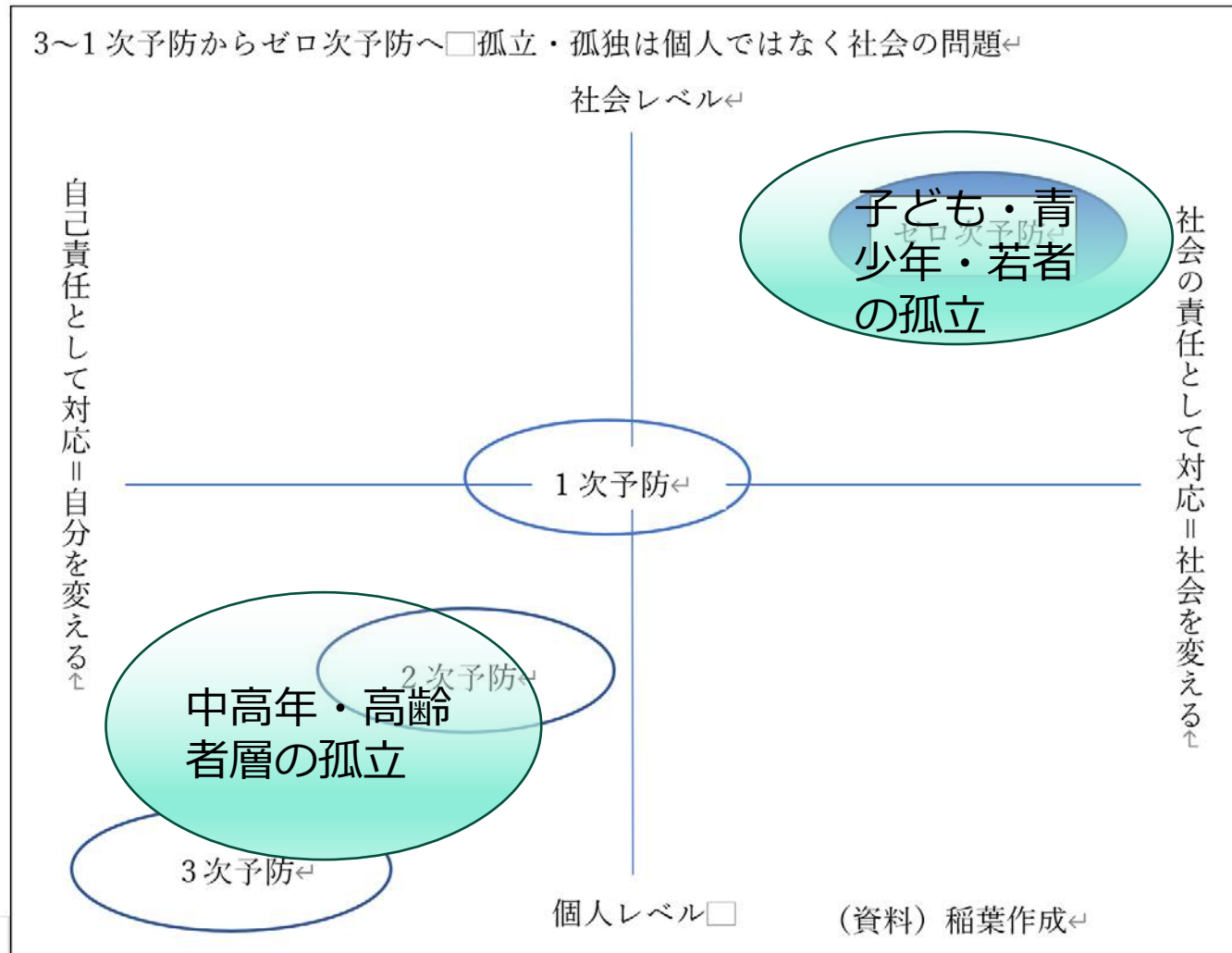
渡辺靖

教育格差がもたらす米社会の  
悲劇的顛末。

古市憲寿

絶望の階級社会は未来の日本か?

# 個人の責任か社会の責任か：子ども・青少年・若者層の孤立と中高年層の孤立の違い



「日本とフランスではほとんど同じ、福祉サービスが存在します。けれど、日本では家庭環境が直撃する子どもに、福祉のソーシャルワーカーが担当にいても、ソーシャルワークは存在しないようなものでした。その原因は、福祉の枠組みはあっても哲学や価値観が判断や議論の土台として不足していることだと考えています。「子どもにとってより良い環境」を共通の目的として子ども、親、学校、福祉が同じテーブルを囲んでいなかったのです。」

(pp.140-141)

一人ひとりに届ける福祉が支える

# フランスの子どもの 育ちと家族

安發明子 著  
Awa Akiko





## ソーシャルワークとは？フランス社会福祉家族法の定義（p.9）

- ◆ すべての基本的な権利への人々のアクセスを可能にすること、人々の社会への参加を容易にし、市民としての活動を十分に行うことができるようにすることが目的
- ◆ 個人とグループへのアプローチによって社会を変化させ、発展させ、社会内の人々が団結していくよう貢献する。人々が自分自身のために発言し行動する能力の発展に参加する
- ◆ その目的達成のために、専門多分野、学際的なプロフェッショナルたちの実践を取りまとめる。
- ◆ ソーシャルワークの実践は、プロフェッショナルとサポートを受ける人との関係の中で築かれる。

## ソーシャルワーカーたちが表現する職業理念（p.9）

- ・ 個人の悩みは社会的なもの、政治的なもの。個人が社会に合わせるようにするのではなく、社会を個々人に適応させる。
- ・ 「困っている人を助ける」ではなく、すべての人に居場所がある世の中になるように働きかける。
- ・ ソーシャルワーカーの使命は、社会問題を解決すること。

## 一人ひとりに届ける福祉が支える フランスの子ども の育ちと家族

安發明子 著  
Ama Akino





# 孤立の若年化とひきこもりの増加


## ■ 石田先生報告 シート4 表1 「相談相手の有無」

JGSS2003では孤立は高齢者の問題、しかし内閣官房令和3年、4年調査では孤立は若年壮年、そして女性（少なくとも30－39歳層では）の問題でもあるように見える。これはこの間の世代間交替（ベビーブーマーからX世代、さらにY世代・Z世代）によるものか、そのほかの要因によるものなのか。

「パットナムは、2000年に発表した『孤独なボウリング』では、1960年代以降の30年間にアメリカにおける市民活動による社会関係資本が大幅に壊れたと主張した。もう少し厳密に言えば、第二次世界大戦前の世代と戦後世代とでは「それはまるで、戦後世代は反市民的なX線のようなものにでも曝されてしまって、コミュニティとのつながりが少なくなるように永続的に変えられ、またその傾向が増しているかのようである。」（パットナム『孤独なボウリング』柴内康文訳、310頁）と述べている。」（稲葉『ソーシャル・キャピタル入門』p.72）

# 因果関係に関する理論的枠組み

View metadata, citation and similar papers at [core.ac.uk](https://core.ac.uk)

brought to you by  CORE

provided by Erasmus University Digital Repository

Author version

1

De Jong Gierveld, J., Van Tilburg, T. G., & Dykstra, P. A. (in press). New Ways of Theorizing and Conducting Research in the Field of Loneliness and Social Isolation. In A. L. Vangelisti & D. Perlman (Eds.), *Cambridge Handbook of Personal Relationships, 2nd revised edition*. Cambridge, New York: Cambridge University Press.

**HDBK Cambridge**

**CHAPTER**

**New Ways of Theorizing and Conducting Research**

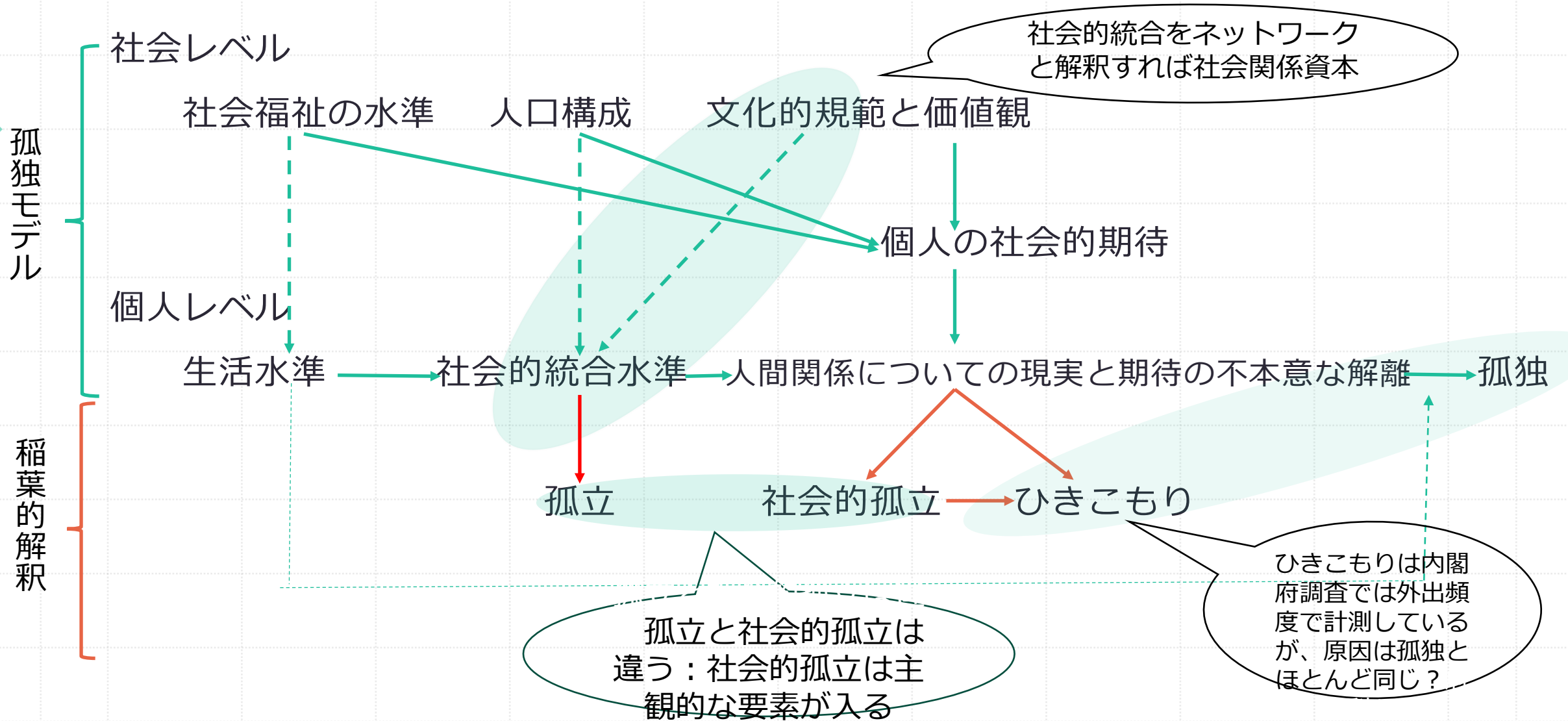
**in the Field of Loneliness and Social Isolation**

*Jenny de Jong Gierveld*

*Theo G. van Tilburg*

*Pearl A. Dykstra*

# De Jong Gierved と Tesch-Romer(2012)の孤独モデルの稲葉的解釈



資料 : Jenny de Jong Gierved et al.(2018),小田中 悠ら(2020)を参考に稲葉作成

Measurement Article

## Social, Emotional, and Existential Loneliness: A Test of the Multidimensional Concept

Theo G. van Tilburg, PhD\*

Department of Sociology, Vrije Universiteit Amsterdam, The Netherlands.

\*Address correspondence to: Theo G. van Tilburg, PhD, Department of Sociology, Vrije Universiteit Amsterdam, Amsterdam, The Netherlands.

E-mail: [Theo.van.Tilburg@vu.nl](mailto:Theo.van.Tilburg@vu.nl)

Received: April 22, 2020; Editorial Decision Date: June 18, 2020

**Decision Editor:** Suzanne Meeks, PhD, FGSA

Downloaded from

“Existential loneliness differs from social and emotional loneliness in two ways. First, social and emotional loneliness are associated with a lack of meaningful social relationships and a lack of social companionship. Existential loneliness is the result of a broader separation related to the nature of existence and, in particular, a lack of meaning in life. An individual may be in the company of others but experience existential loneliness (Larsson et al., 2019). Second, social and emotional loneliness can be overcome by improving the quality of the network of relationships or by adjusting the level of aspiration (Rook & Peplau, 1982). Existential loneliness, on the other hand, has no permanent remedy according to the phenomenological approach (Mayers and Svartberg, 2001).” Tilburg (2020)



Measurement Article

## Social, Emotional, and Existential Loneliness: A Test of the Multidimensional Concept

Theo G. van Tilburg, PhD\*<sup>ORCID</sup>

Department of Sociology, Vrije Universiteit Amsterdam, The Netherlands.

\*Address correspondence to: Theo G. van Tilburg, PhD, Department of Sociology, Vrije Universiteit Amsterdam, Amsterdam, The Netherlands.  
E-mail: [Theo.van.Tilburg@vu.nl](mailto:Theo.van.Tilburg@vu.nl)

Received: April 22, 2020; Editorial Decision Date: June 18, 2020

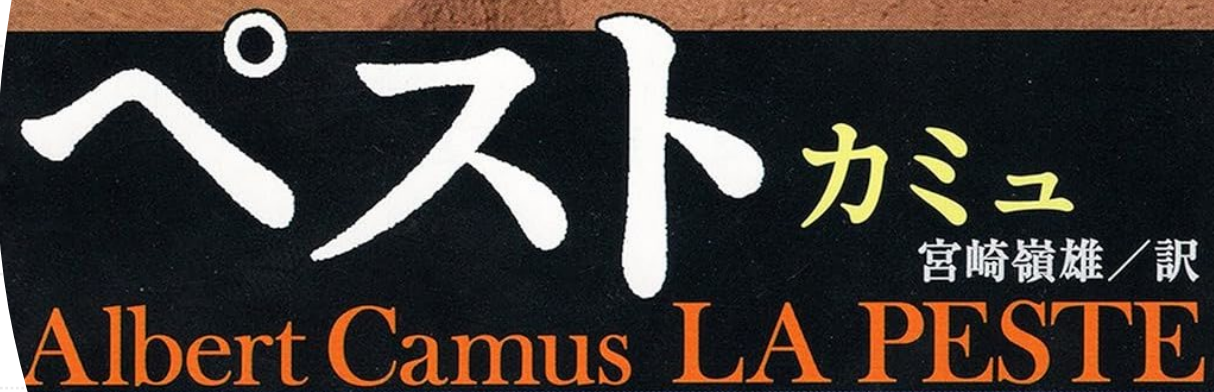
Decision Editor: Suzanne Meeks, PhD, FGSA

Downloaded from

「実存的孤独は、社会的・感情的な孤独とは2つの点で異なります。第一に、社会的および情緒的な孤独は、有意義な社会的関係の欠如と社会的交際の欠如に関連しています。実存的孤独は、存在の本質、特に人生の意味の欠如に関連するより広範な分離の結果です。個人は他の人と一緒にいるかもしれませんが、実存的な孤独を経験します(Larsson et al., 2019)。第二に、社会的および情緒的な孤独は、人間関係のネットワークの質、または願望のレベルを調整することによって改善することによって克服できます(Rook & Peplau, 1982)。一方、実存的孤独には恒久的な治療法はありません(Mayers and Svartberg, 2001)。

# コロナ禍でICTが なければ

- 「ペストが市の門を閉鎖した瞬間から、彼等はまだ別離のなかでだけ生き、すべてを忘れさせてくれる人間的な温かみを挽ぎ取られてしまっていたのである」  
(p. 213\*)
- \*表紙写真は新潮文庫であるが、ここでの引用は宮崎嶺雄訳（1958）『カミュ 著作集Ⅱ ペスト “LA PESTE”』 新潮社に拠っている。



ペスト カミュ  
宮崎嶺雄 / 訳  
Albert Camus LA PESTE



# リモートワークが 仕事のやり方を変え 社会も変えると 主張

Manifesto of Freedom  
and Independence avoiding 3C's,  
Closed spaces, Crowded places,  
Close-contact  
in the Centralized World

金光淳

KANAMITSU JUN

リモートソフト  
ネットワーク分析で迫る  
社会戦略

「3密」から  
「3疎」への

触れ合うほどに近づくことも、たくさんの人が集まることも望ましくない。  
そんな社会で、私たちは楽しく生き、充実して働くことができるのか？ できる！  
この本が、その方法を、ネットワーク論という専門知の裏付けをもって提案してくれる。  
人々が切実に問うていることに真正面から応える。  
社会学者としてのこの使命感に感動した。 ——大澤 真幸(社会学者)

社会ネットワーク分析者が贈る、ポスト・コロナを見すえた新たな働き方と生き方の提言。  
社会ネットワーク分析の基礎概念とともに、変わりゆく社会で動揺せずに働くための  
ユニークな「3疎」概念の提唱もあり、同じ専門分野の学者として、  
素直に良い仕事だと思う。 ——安田 雪(社会学者)



Contents lists available at ScienceDirect

## SSM - Population Health

journal homepage: [www.elsevier.com/locate/ssmph](http://www.elsevier.com/locate/ssmph)

## ソーシャルウェルビーイングのためのデジタル技術の使用は、高齢者の社会的孤立を軽減



### The use of digital technology for social wellbeing reduces social isolation in older adults: A systematic review

Keya Sen <sup>a,\*</sup>, Gayle Prybutok <sup>b</sup>, Victor Prybutok <sup>c</sup>

<sup>a</sup> School of Health Administration, College of Health Professions, Texas State University, San Marcos, TX, USA

<sup>b</sup> Department of Rehabilitation and Health Services, College of Health and Public Service, University of North Texas, Denton, TX, USA

<sup>c</sup> Toulouse Graduate School, University of North Texas, Denton, TX, USA

(要約) このシステマティックレビューは、社会的孤立を減らすために高齢者がテクノロジーを利用する必要性を強調している。長年にわたるテクノロジーの進歩に伴い、その利用に基づく介入の有効性を検討することで、社会的孤立の問題にどのように対処し、社会的ウェルビーイングを高めることができるかを確認することができる。我々は、高齢者が手頃な価格で利用しやすいテクノロジーの利用からどのような恩恵を最も受けることができるのか、また、そのような介入の訓練や実施が、有益な効果を最大化するためにどのように調整することができるのかを明らかにすることに焦点を当てている。PRISMA (Preferred Reporting Items for Systematic Reviews and Meta-Analyses) ガイドラインに従い、関連研究を選択した。25の論文を分析し、テーマを特定するためにナラティブ分析を行い、技術利用とウェルビーイングに関連するQOL指標を明らかにした。地域参加型研究のベストプラクティスに従い地域レベルで高齢者を巻き込むことで、テクノロジーに基づく社会的孤立への介入を実施し、高齢者のデジタル利用自己効力感を高めるための効果的な実践を促進することができる。モバイル技術に基づくアプリケーションは、家族がつながりを保つのを助けるだけでなく、高齢者をヘルスケアのリソースにつなげ、心身の健康を促す。テクノロジー機器の使用は、認知、視覚、聴覚のニーズに対応し、高齢者のデジタル利用自己効力感を高め、特にCOVID-19パンデミック時に必要な社会的距離や自己隔離の際に役立つ。

(稲葉 試訳)





Contents lists available at [ScienceDirect](https://www.sciencedirect.com)

## Preventive Medicine Reports

journal homepage: [www.elsevier.com/locate/pmedr](https://www.elsevier.com/locate/pmedr)



コミュニティの再定義: 不法移民の若年成人についての在留資格の違いと、オンラインとオフラインのソーシャルキャピタル、抑うつ症状との関連

Redefining communities: The association between deferred action, online and offline social capital and depressive symptoms among undocumented young adults

May Sudhinaraset<sup>a,\*</sup>, Amanda Landrian<sup>a</sup>, Hye Young Choi<sup>b</sup>, Irving Ling<sup>c</sup>

<sup>a</sup> Community Health Sciences, Fielding School of Public Health, University of California, Los Angeles, 650 Charles E. Young Dr. South, Los Angeles, CA 90095, USA

<sup>b</sup> Social and Behavioral Sciences, Harvard T.H. Chan School of Public Health, 677 Huntington Avenue, Boston, MA 02115, USA

<sup>c</sup> Department of Medicine, University of California, San Francisco, 505 Parnassus Ave., San Francisco, CA 94143, USA

インターネット、ソーシャル・ネットワーキング・サイトの爆発的な普及とCOVID-19は、健康における新しい概念-オンライン・ソーシャル・キャピタル (SC) -を促進した。オンラインSCとは、信頼と集団規範を促進するオンライン・ソーシャル・ネットワークへのつながりと定義される。特に、“日陰で暮らす”130万人の若年成人不法移民にとって、インターネットは支援と規範の場となっている。本研究では、強制国外退去停止措置DACA (Deferred Action for Childhood Arrivals) のステータスを持つ者と持たない者について、オフラインSC、オンラインSC、抑うつ症状との関連を検証した。2017年に実施されたインターネット調査データを用いて、カリフォルニア (N=208) を調査した。DACAの資格のない者は、DACA資格のある者よりも、オンラインSCが高く ( $p < 0.001$ )、抑うつ症状が高い ( $p = 0.01$ )。線形回帰を用いて、オンラインSCがDACAステータスと抑うつ症状の関係を潜在的に媒介する証拠を発見した。また、オフラインSCが増加すると、オンラインSCと抑うつ症状との関連は減少する。本研究は、オフライン・コミュニティの力と、コミュニティ・リソースへのアクセスを増やすことの重要性、特に、オンライン・ソーシャル・ネットワークしか持たない、退去措置停止の身分のない人々にとって、を指摘している。(稲葉試訳)

# 参考

- 安發明子（2023）『一人ひとりに届ける福祉が支えるフランスの子どもの育ちと家族』かもがわ出版
- Camus, Albert (1947) *La Peste* (= 1958 宮崎嶺雄訳 『カミュ著作集Ⅱベスト “LA PASTE” 新潮社)
- De Jong Gierveld, J. & C. Tesch-Römer, 2012, “Loneliness in Old Age in Eastern and Western European Societies: Theoretical Perspectives,” *European Journal of Ageing* 9 (4): 285–95.
- De Jong Gierveld, J., T. G. van Tilburg & P. A. Dykstra, 2018, “New Ways of Theorizing and Conducting in the Field of Loneliness and Social Isolation,” In *The Cambridge Handbook of Personal Relationships*, edited by A. Vangelisti & D. Perlman, 2nd ed., 391–404. Cambridge : Cambridge University Press.
- 稲葉陽二（2017）「書評 ロバート・パットナム著／柴内康文訳 『われらの子ども 米国における機会格差の拡大』」『経済社会学会年報』第39巻 pp.212-215
- 金光淳（2020）『「3密」から「3疎」への社会戦略 リモートワーク分析で迫るリモートシフト』明石書店
- 小田中悠ほか（2020）「人間関係の希薄さに関する研究のレビュー：社会的孤立，孤独，SNS に注目して」IPSS Discussion Paper Series、No.2020-J01、国立社会保障・人口問題研究所
- Putnam, R.D. (2015) *Our Kids: The American Dream in Crisis*, Simon & Schuster. (柴内康文訳 [2017] 『われらの子ども—米国における機会格差の拡大』創元社)
- 柴内康文（2017）「訳者解説」『われらの子ども—米国における機会格差の拡大』創元社、pp.315-327.
- Sen, Keya, Gayle Prybutok, and Victor Prybutok(2022) The use of digital technology for social wellbeing reduces social isolation in older adults: A systematic review, *SSM -Population Health*, Volume 17, <https://doi.org/10.1016/j.ssmph.2021.101020>.
- Sudhinaraset, M.,A. Landrian, H. Young Choi, & I. Ling (2021) Redefining communities: The association between deferred action, online and offline social capital and depressive symptoms among undocumented young adults, *Preventive Medicine Reports* 24 (2021) 101563
- Von Tilburg, T.G.(2020) Social, Emotional, and Existential Loneliness: A Test of the Multidimensional Concept, *The Gerontologist*, 2021, Vol. 61, No.7, e335-e344, doi:10.1093/geront/gnaa082

# Appendix



# Social Capitalの定義

- ・ Social Capital（邦訳は社会関係資本）：人や組織間のネットワークとそれが醸成する信頼や規範。私は「心の外部性をともなう、ネットワーク、信頼、規範」としています。
- ・ 「外部性」は行為の当事者ではなく第3者への影響で、望ましいものだけではなく、望ましくない影響もあります。「心の」とあるのは当事者が認知して初めて成立するからです。
- ・ もともと、**社会を個人レベルと社会レベルの双方から分析することを促す概念**で、全体からみれば最善策があるのに個人レベルでは目先の利己的な利益にはしり次善以下の策に落ち着いてしまう**集合行為のジレンマを解決**することを目的としていたので、信頼、規範が含まれています。



# 誰が提唱したか

- ソーシャル・キャピタルは様々な分野の碩学によって提唱されてきました。
- 1980年代には文化人類学者・社会学者・哲学者である仏のピエール・ブルデューが提唱しましたが、それ以前にも1960年代に都市問題評論のジェーン・ジェイコブス、70年代に経済学者グレン・ローリーがこの用語を用いています。
- 私は、社会関係資本の概念を理論として確立し、政治学、経済学、経営学、社会疫学などの多岐に亘る領域の識者へ影響を与えた社会学者ジェームス・コールマンの理論を基礎に、彼が確立した理論をより現実に即して展開したロバート・パットナム（政治学者）、さらにその概念を拡張したエリノア・オスロム（政治学者だがコモンズ研究で2009年女性初のノーベル経済学賞を受賞）の社会関係資本論を継承しています。

# 何の役にたつのか

- ソーシャル・キャピタルの影響研究が最も進んでいるのは公衆衛生の分野で、心身両面の健康への影響が明らかになっています。日本では、千葉大の近藤克則先生がはじめられた日本老年学的評価研究（JAGES）で、高齢者を対象とした全国調査で、同じ回答者を追跡するデータをとるようになって、ソーシャル・キャピタルの健康への影響をより明確にとらえられるようになっていきます。彼はその功績で2020年の日本医師会医学賞を受賞しています。
- 経済、経営、社会、健康、福祉、政治、市民社会、教育等の分野で、研究成果がまとめられ、最近では世界で年間2000本以上の論文が公表されています。